

2022年度 関東学生水球リーグ戦水球【戦評】

会場：成蹊大学

【2022/6/5】

この試合のプレー集計

2部3-4

国際武道大学 14

2	—	1
3	—	2
4	—	2
5	—	5
PSO		

10 東京大学

審判： 宇田川 佑里子
齋藤 夏輝

国際武道大学	36	SH数	33	東京大学
	13	速攻数	12	
	21	ST・SB	15	
	9	SH・P誘発アシスト	8	
	58%	GK阻止率	22%	
5	EX反則数	7		

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

2部リーグ3位決定戦。試合前に、ゲームマナーに問題がある国際武道大学ベンチに注意が入り、両校最終戦はクリーンな戦いが期待された。

1P

国武側はボール接点で優位に立ってからチャンスをつかむが、⑫大村のシュートに精彩がなく、点数が入らない。⑫大村のシュートミスから東大がゴール前で④笠間がペナルティを誘発して自身が決め、1-1に。その後、国武は④内野が外周から伸びのあるシュートを決めたものの、その後はパスミス、シュートミスが目立ち、国武2-1東大でピリオド終了。

2P

センターボールをニュートラルで奪った東大⑤大竹から全員で泳ぎ、⑫下郡山が中央ドライブ攻撃を決めて同点に。その後、国武側は相変わらずボール処理ミスやシュートミスが続いていたが、東大シュートミスについて⑧蘆澤が退水を奪いそのまま決め、さらに④内野が速攻を決めて2点差。東大は国武⑤下村のボール処理ミスについて④笠間が速攻を決めて1点差に詰めたが、再び④内野が外周からシュートを決め、国武5-3東大で前半を折り返した。

3P

ピリオド最初の国武側の攻撃で、センターのいい位置を取った⑤下村に⑫大村がアシストパス。それをバックシュートで決め、さらに気をよくした⑤下村が続けてセンター位置から決めて4点差とした。しかし、⑤下村のコントラ反則から東大が1点を返すと、その後は退水、ペナルティの応酬で国武9-5東大で最終ピリオドへ。

4P

最初の東大の攻撃を国武②湯浅が摘み、その速攻を④内野が決め、続いてシュートが不調だった⑫大村がセンター位置で得点して6点差。ピリオド中盤からは最終戦という事もあって国武側は選手交代させる余裕を見せるが、交代選手たちのミスが続いて一気に4点を返されるとい締まりのないゲームとなった。最終的には国武14-10東大で国武の3位、東大の4位が決まった。

このゲームでは、東大側が攻撃権放棄したボールが上部ネットに当たり、ローカルルールで定めた処理方法をめぐって一時再確認がなされた。今回は明らかに「攻撃権放棄」プレーだったので、相手ボールからの再開という対応になったが、オーバータイム間近でのプレーでのローカルルール適用方法については審判団を含めた今後の検討が必要であることが確認された。